

目次

はしがき …… (11)

第一篇 薄暮 …… (17)

(1) 消えた歸還の喜び …… (19)

|| 巢鴨からマニラへ ||

(2) 無茶な作戦 …… (25)

|| 敗戦の跡を辿る ||

(3) 處刑された二米人 …… (29)

|| トモホンの二つの事件 ||

(4) 意外な告白 …… (34)

|| ビルマで戦死した私 ||

(5) 戦犯對策に躍起の將兵 …… (39)

|| 田村一味の卑劣な手段 ||

(6) 生と死の争ひ …… (四三)

——田村に「三等兵」の諱名——

(7) 米人辯護士の熱誠 …… (四九)

——田村の奸計——

(8) 虚々實々の問答 …… (五五)

——ルパウに飛ぶ——

(9) 希望の光消ゆ …… (六〇)

——田村遂に病死——

(10) 相ついで不利な證言 …… (六六)

——スよスよ開廷——

(11) 市橋證言を覆す …… (七三)

——息詰る法廷第三日——

(12) 悲憤の涙のむ …… (七七)

——東京から二人の證人——

(13) 人類至上のモラル …… (八〇)

——切れた望みの綱——

(14) ロボットから野獸へ …… (八八)

——逃げ廻る部隊長——

(15) 皮肉な敵味方 …… (九一)

——惱む和知中尉——

(16) 「ハンダ」——絞首刑！ …… (九四)

——ついに下つた判決——

(17) 娑婆よ、さよなら …… (九九)

——死刑囚棟へ新入り——

(18) 單一にして複雑 …… (一〇二)

——獨房の禪問答——

(19) 誰か故郷を想はざる …… (一〇六)

——死の殿堂に湧く鼓聲——

(20) 亂れ飛ぶ風説 …… (一一一)

——ウキウキする死刑囚——

(21) あれが死刑執行官………(一七)

 || 嬉しや辯護人來る ||

(22) 湧き起る「海行かば」………(一〇)

 || 死刑囚を送る ||

(23) 生と死と………(一五)

 || 夢にみる絞首刑 ||

(24) 讚美歌も「死の行進曲」………(一〇)

 || 死刑の執行相づく ||

(25) 闇をぬふ銃聲………(一三)

 || 信仰の道にすがる ||

(26) 米人の温情に感泣………(一八)

 || 石坂に若武者の姿を想ふ ||

第二篇 暗 黒………(四)

(1) 辯護士ついに歸國………(一七)

(2) 遺書をしたしむ………(一五)

 || 新獄舎にうつる ||

(3) 新獄舎にも死の旋風………(一五六)

 || 歡喜に狂ふ山口大佐 ||

(4) 下駄ばきで絞首臺へ………(一〇)

 || 信仰と獄舎生活 ||

(5) 獄舎に麗人群………(一六)

 || 山下將軍の思ひ出 ||

(6) 結婚か獨身か………(一七)

 || 死刑を忘れた女の話 ||

(7) 血の叫び………(一六)

 || 人生至上の幸福とは ||

(8) 死出の旅に上る部下達………(一八)

 || 苦惱する尾家部隊長 ||

(9) 見 榮 と 裸 …… (一八六)

||| 死刑囚心理と語る |||

(10) 根強い生の執念 …… (一九〇)

||| 死出の旅路を體驗 |||

(11) 遺書にまで悪口 …… (一九七)

||| 空念佛の部隊長 |||

(12) 死の妖氣は去らず …… (二〇一)

||| 刻々せまる死との對面 |||

(13) 絞首臺の豫行演習 …… (二〇五)

||| 五名は真鴨に運送 |||

(14) 我思ふ故に我あり …… (二一〇)

||| 久方ぶりに朗笑 |||

(15) 嬉しい娑婆の様相 …… (二一七)

||| 同僚の獄送裡に乗船 |||

(16) さらば「マニシ」よ …… (二二二)

||| ここにも米人の温情 |||

第三篇 黎 明 …… (二二九)

(1) 獨房こそこの世の天國 …… (二三二)

||| ふたたび巢鴨の生活 |||

(2) 白壁にひびく讀經の聲 …… (二三六)

||| 花山教悔師を慕ふ |||

(3) 動搖する信念 …… (二四〇)

||| 死刑囚と教悔師 |||

(4) 明け方の一騒動 …… (二四六)

||| 家族との面接許さる |||

(5) 「カド、マ、ツ」の呼び聲 …… (二五三)

||| 豫期しない面會者 |||

(6) 意外や妻の姿 …… (二五八)

||| 手錠を匿すに一苦心 |||

(7) 笑ひの假面 …… (二六五)
 〓 偽善もまた楽し 〓

(8) ラッキイ・ボーイ …… (二七七)
 〓 不意に來た幸運 〓

(9) 天國と地獄の相違 …… (三六)
 〓 「死の國」から脱出 〓

(10) 生の喜び …… (二八四)
 〓 何年ぶりの楽しい朝 〓

(11) 忍従と誠實こそ最後の勝利 …… (二八七)
 〓 今ぞ射す人生の曙光 〓

(12) 運動場に彈ひ歡喜 …… (三九一)
 〓 減刑工作に妻も一役 〓

(13) あゝ市橋曹長いづこ …… (一九六)
 〓 ここにも醜い論争 〓

(14) 十四の棺桶 …… (一〇一)

〓 逝つた友の思ひ出 〓

(15) かりりと並んだキラ屋 …… (三〇六)
 〓 容疑者棟へさらに移さる 〓

(16) 運動場で閑僚會議 …… (三一)
 〓 ロボットにすぎない右翼 〓

(17) 花山説教では浮べれぬ …… (三四)
 〓 中絶した法話の謎 〓

(18) 法話に尾家部隊長登場 …… (三九)
 〓 花山師の説教を聴く 〓

(19) 最も幸福な人生とは …… (三五)
 〓 中絶した法話の謎 〓

(20) 孤影悄然の東條元首相 …… (四〇)
 〓 Aクラス戦犯の生活 〓

(21) あゝ俺は生きている …… (四三)
 〓 無罪釋放の歡喜 〓

は し が き

戦争中、大本營參謀 和歌山歩兵聯隊長、南方方面軍情報課長などをやつていた私は、昭和二十一年五月西貢から日本に復員したが、歸る早々戦犯容疑者として拘禁され、二十二年の二月八日マニラ軍事法廷で、有罪——絞首刑を宣告された。

そして、この書の内容となつてゐる死刑囚獨房生活——を送ること一年八月、絞首臺に登る寸前の二十三年十一月十七日に、岡らすら無罪の判決を得て巣鴨から釋放され、戦犯裁判始つて以來唯一人の幸運兒となることゝなされた。

私の運命を振り返つて見ると全く奇蹟の一語につきるが、私を死の世界か

ら甦らしてくれたのは米國人であり、私を死刑囚に追い込もうとしたのが我が同胞であつたことを思うとき、私は底知れぬ淋しさにおそわれる。

擔任の米人辯護士アドレ、ソーチの兩氏は、一介の日本人にすぎぬ私を助けるために、凡ゆる困難を押し切つて文字通り献身的努力を傾注されたが、これこそ兩氏の正義觀の現れであり且つ米國人に共通に抱かれている人間愛の顯現に外ならぬ。

この人類最高次のモラルが、如何に遠く本國を離れた米國人の血の中にも燃え輝いていたればこそ、辯護士も米軍當局も一緒になつて、罪なき者ならば何とでもして助けたいの一念と化し、法廷では明らかになれ得なかつた真相を、一年有半の日時をかけて遂に突きとめられたのであつたが、試みに想え、我々日本人にかくの如き氣持があるかどうかを。

「少女ケタイを救え！」と、全米を擧げて血眼となり、片田舎の一幼児のために祈りを捧げた米國人の人間愛が、私にはよく理解されるのだ。

玉碎したと信じられていたタイバンや硫黄島の父や兄や弟が、終戦後元氣な姿で復員したという實例はあまりにも多いが、彼等は勿論米軍の手によつて救出されたのである。

米軍はこれら生存者を救出するため、或は飛行機を使つて搜索し、食糧や娯樂品まで投下し、或は救助艇を用いて危険から脱出せしめる等可能な方法の一切を盡して尊い人命の救助に當つたことを忘れてはならない。

x
私はこの一文を書きつゝも、過ぎし方を振り返るとき、未だに冷酷無比な「死」の姿に慄然とする。

戦争中、我々は「死」を鴻毛の輕きに例え、「欣然死地に赴く」などと、自他を僞喃して兵を鼓舞して來た。

だが、私は死刑囚になつて、「死」というものがしかく簡單なものでないことを知つた。近づく絞首日を見つめる獨房内の苦惱——生と死は紙一重の

背中合せだが、死を見つめて始めて人間の命の如何に大切にされねばならぬか、を悟つたのである。そして享け難い生命を享けたことに限りない愛着を抱きつゝ、生き抜くところに、人生の深く尊い味わいがあり、且つこゝにこそ平和發見の鍵があるのだ、と肝に刻んだ。

こうした氣持から、私は人間性をむき出しにしてこの書を書きつゝつた。これは私の更生第一歩の記念でもある。

また、やゝもすれば人の命が随分ぞんざいにされ勝ちな今日此頃、この一文によつて生命というものが考えなおされ、人間愛を、そして日本人の血を受けついでいるということを、世の人々が振り返えつてみるきっかけとなりかくて平和日本建設に少しでも役立つならば幸これに過ぎるものがない。

今、私は「生かされている」という人生至上の喜悅にひたりながらも、念

頭を常に離れ去らないのは、すでに逝つた死刑囚同僚の面影である。

その友たちと私は一緒に死んで行こうと語り合つていたので。だが今日、私は生きている。私は、絞首臺の露と消えた友たちの冥福を祈らずにはいられない——。そして友の流した血が、やがては人類永遠の平和のための尊い礎とならんことを念じてやまない。

本書の上梓は専ら先報諸氏の溫情と知遇によるものである。そのお名前を一々こゝには記さないが、これらの人々に對し深き敬意と限りない感謝を捧げる。

昭和二十五年春彼岸の中日

机上一輪の水仙に想いを寄せつゝ、